

## 海外へ出られる皆さまへ

先日のアルジェリアでのテロ事件にはやり場のない怒りと悲しみを覚えます。犠牲になった方々のご遺族の皆様には心から哀悼の意を表する次第です。

今、改めて海外での安全確保について論議がされていますが、民族・宗教間の対立、貧富の格差、市民暴動など各国の政治事情や国際情勢の複雑さからくるものについては、個人レベルではいかんともし難い面もあります。

それでも各人が注意してさえいれば防げる事故や事件も多くあります。日本から一步出たらそこはいつでも危険が待ち受けています。私自身は現役時代を含めて約12年間の海外滞在を経験し40カ国余りを訪問、現在も世界文学紀行の旅を続けています。そんな中でこれまでに会った危険との遭遇をここでご紹介したいと思います。海外に出られる皆様の何かのご参考になれば幸いです。



☆

☆

☆

☆

現役時代に駐在地だったパナマに行った際の事です。

日本からパナマへの直行便はないので、たいていロサンゼルスかマイアミかニューヨーク経由、もしくはメキシコ経由で別便に乗り換えが必要でした。どんなコースでもだいたい経由地で1泊しなければなりません。

このときはニューヨーク経由。ケネディ国際空港のロビーを出ると私はタクシー乗り場に向かいました。と、乗り場のすぐ近くでウォークトーカーで話していた男性がさっと私に近づくと「ホテルからお迎えにまいりました」と言うのです。日本でホテルを予約した際には、そんな出迎えサービスは記してなかったのだから、「変だな？」と思いながらも「そんなサービスがあるなんて助かった。タクシー探しの手間も省けるし・・・」と彼の車に乗り込んだのです。

車は勢いよく走り出しました。ところが空港の駐車場の出口で止まった。と、もう一人の男が乗り込んできたのです。「ニューヨーク市内に行く友人なので一緒に乗せてやってくれ」と運転する男の弁。「ヤバイ！二人に誘拐されるかもしれない！」。一瞬、恐怖感が襲ってきました。考え直してみると、彼が無線で話していたのは、私の到着をホテルへ報告する電話ではなく、相棒との打ち合わせだったのです。

幸いに車はとんでもない方向に行くこともなく、市内に向かっていました。私は後から乗ってきた男がたまたまスペイン語を話すのを聞き、自分もスペイン語を使い、いかにも中南米については事情が詳しい的印象を与えるように試みました。

「そんな簡単にだまされる日本人じゃあないゾ！」とのデモンストレーションでもあったのです。

その効果かどうかわかりませんが、とにかく車は目的のホテル近くまでは来ました。で



もホテルの玄関につけるのではなく、その前の広い道路の反対側で荷物ともども降ろされることになったのです。関係者に“白タク”とわかってはまずいでしょう。

料金は200ドルを請求されました。正規のタクシー料金だと50ドル前後のはずです。その4倍を吹っ掛けられたわけですが、私は黙って要求通り払いました。文句を言っている間に、今度はどこか人のいないところへでも連れていかれたら手も足も出ない。命が助かった、とにかく無事にホテルまで着いただけでもラッキーだった、と。旅慣れているつもり自分だったけれど甘かった。彼らの巧みなやりかたに完全に乗せられていたのです。

皆さん、海外での白タクの手口にはくれぐれもご注意を！！

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

上記は、このホームページの「コラム・エッセイ」欄の「コワかった海外取材での体験」からの引用に少し手を加えたものです。



この欄ではさらに「ヒューストンの空港からタクシーでメキシコ湾まで<200キロ以上>乗せられそうになった」「ニューヨーク空港を隣の州にあるニューアーク空港と間違ってしまったこと」「ニカラグアで諜報機関に逮捕連行されそうになった」「雨が降るパナマの農村で危うく銃撃されかけたこと」「スペインの観光都市トレドで偽警察官に騙されそうになった」「首都マドリードで大勢の人がいるなか巧妙なスリにやられたこと」等々の体験について紹介していきますのでご覧ください。“よくぞ今まで無事で来られた、生きていた！”との実感です。

結論として、海外に出かけて無事故でいるためには：

1. まずネットで外務省の渡航情報をよく確認すること。特に危険地域といわれている国について最新情報を得ておくことが大切です。
2. 長期の滞在予定の場合には、その地域を管轄している日本の領事館に滞在届を出すこと。滞在が3か月以上の場合には旅券法で届け出が義務になっています。ただし罰則はないので忙しかったり遠かったりでしない人もいますが、私は長期の留学生などにできるだけ届け出をするように指導しています。事件やテロの情報が入った場合には連絡をくれるし、その後の救援活動の対象にもなるからです。何もないと連絡や掌握、救援のしようがありません。
3. しっかり情報を持ったうえで「海外での治安事情は日本とは根本的に違う。自分の身は自分で守る」との心構えを持ち行動すること。  
などです。

あとは、この項で述べてきた、また「コワかった海外取材での体験」で綴っている私の実体験を教訓とし、ヒントとしていただければと思います。どうか海外での旅が、また留学や仕事での海外駐在が無事故で成果を上げられますようお祈りしています。

